

第146号

2014.12.25

# ながの 社会福祉士会 NEWS

■発行：一般社団法人長野県社会福祉士会 ■会長：三村 仁 志  
■事務局：〒380-0836 長野市南県町685-2 長野県食糧会館 6 F  
TEL：026(266)0294 E-mail：info@nacsw.jp  
FAX：026(266)0339 http://nacsw.jp/ ■編集：広報編集委員会

## 目次

|                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| H27年度福祉予算拡充等の陳情 …………… 1     | 福祉まるごと学会 各セミナー報告 …… 5 |
| 累犯障がい者・高齢者の支援を考えるセミナー … 2～3 | 会員寄稿／地区総会案内 …………… 6～7 |
| 弁護士・社会福祉士 相互学習会 …………… 4     | 今後の予定／編集後記 …………… 8    |

## 社会福祉士の任用拡大、平成27年度福祉予算拡充等の陳情

—長野県知事及び77市町村長に要望、説明、懇談—

本会では、会員1,000人達成を契機に長野県知事及び市町村長に対する「社会福祉士の任用拡大、平成27年度の福祉関係予算の拡充」等に陳情活動を展開してきました。

陳情は、11月19日午前中の長野県知事、長野市長を皮切りに、約1カ月をかけ正副会長、理事を先頭に全77市町村長に要望書を手渡し、説明、懇談を行いました。

### 要望書の概要（市町村長宛）

- 1 社会福祉士の任用拡大
- 2 平成27年度福祉関係予算の増額
  - (1) 高齢者虐待対応専門職チーム派遣に要する経費の予算化
  - (2) 成年後見制度利用支援事業の予算化
    - ① 市町村長申立ての基準及び運用の緩和、申立費用の負担軽減、報酬補助の拡大
    - ② 成年後見支援センター等設置の圏域市町村は、受託法人に対する財政支援の拡充
    - ③ 成年後見支援センター等未設置の圏域市町村は、高齢者・障がい者の権利擁護推進のために早急に設置
- 3 各種審議会、運営委員会等への社会福祉士登用
- 4 福祉計画策定に係る県社会福祉士会の活用

長野県知事には、市町村長に要望した内容と同様に、市町村への指導と定着センター予算の確保等を要望した。

### 長野市長への陳情

長野市長への要望は11月19日10時から、三村会長等三役が市役所を訪問。対応は樋口副市長はじめ関係部課長他、社会福祉士の任用拡大の要望もあったた



め職員課長も同席して行われた。

三村会長からは冒頭、障がい者、高齢者などの支援に向けて専門性が求められていることから、社会福祉士の採用を要請した。懇談の中で本会が長野市から受託した「長野市第三次地域福祉計画策定支援業務」について、長野市と本会が力を合わせ全国に発信できる計画を策定していくことを確認するなど、和やかに行われた。

### 長野県知事への陳情

長野県知事への陳情は、11月19日11時30分から、三村会長等三役が県庁を訪問して行った。

長野県側は、小林健康福祉部長他、関係課長・係員が対応した。

小林部長は、本会の訪問を歓迎し約45分間に渡り、要望事項や社会福祉士及び社会福祉士会の役割等について懇談した。



### 県下市町村長への陳情

県下の市町村長に対する陳情は、佐久市及び小諸市では市長に、佐久圏域や南信州でも町村長に直接要望書を手渡ししながら説明・懇談を行った。

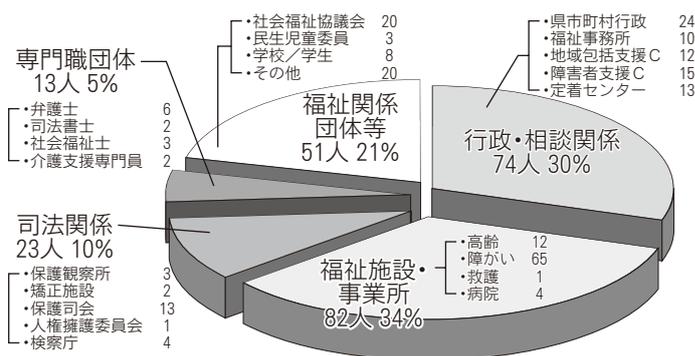
その他の市町村長への陳情に対して、それぞれの市町村の部課長が対応した。（最終12月24日）

# 累犯障がい者・高齢者の支援を考えるセミナー

累犯障がい者・高齢者の支援を考えるセミナーは、11月14日松本市浅間温泉文化センターにおいて、243人の参加者を迎え開催された。

プログラムは、作家、元衆議院議員の山本議司氏の講演及び「累犯障がい者・高齢者の支援方法について」をテーマにしたシンポジウムを行った。

参加者の内訳は、右グラフのとおりで県下各地から多数参加し、県外からの参加もあった。



## 山本議司氏の講演概要

自身の刑務所服役体験を元に、作家・元衆議院議員の山本議司氏が『罪に問われた障がい者・高齢者の実情と今後の課題』と題して熱く訴えた。

### 新規受刑者の約4分の1は知的障がい者

日本の刑務所の新規受刑者の約4分の1が、軽度の知的障がい者という統計があり、その多くが軽微な罪によって何度も服役している。また、刑務所の障がい者の数や高齢化率が、世界と比較して突出して高い状態にある。



にも関わらず、福祉施設が出所後の受け皿になっているケースは驚くほど少ない。前科が加わった障がい者や高齢者に対して、未だ福祉土壌が成熟していない冷淡な状況にある。

### 刑務所に自由はない 福祉に自由はあるか

受刑者から“刑務所に自由はないが、不自由さもない”“福祉の世話になったら最後、もう無期懲役だ”等聞いた。福祉の世話になると、一本のレールの上に乗せられ自由が無くなってしまう等、そんな発言も耳にした。

福祉関係者は、今日の福祉水準の問題はあるが、罪を問われた障がい者・高齢者が実際に受け止め感じる福祉への印象とのギャップに耳を傾け、傲慢さや押しつけにならない意識改革の必要である。

### 変わるべきは、福祉関係者・地域の意識

多くの福祉関係者は、近辺に罪に問われた障がい者が現れたとしても、彼らを特異な存在として受け取り、福祉的支援の対象から外してしまっている。

軽微な罪を犯した知的障がい者等を、いちいち刑事司法のルートに乗せて刑務所に送ることが、税金の使われ方として正しいのか。

変わるべきは、罪を犯した障がい者の方ではなく、福祉に関わる人たちの意識、そして地域社会の意識である。

## シンポジウム概要

シンポジウムは、障害者総合支援センター、高齢者施設、障がい者施設の職員及び弁護士と講師の山本議司氏も交えて、長野県地域生活定着支援センター長のコーディネーターにより行った。

### ◇小木曾明彦氏（障害者総合支援センター）

実際に支援したケースについて、単に刑事事件だけでなく、幼少の家庭環境、家族関係、福祉施設での生活状況等詳しく紹介。

支援センターの役割として、本人の自立更正への努力を気長に支援していくこと。家族や行政、福祉施設、地域等と緊密な連携が必要なことを強調した。

### ◇佐藤愛子氏（高齢福祉施設）

刑務所出所者を有料老人ホームで受け入れた経緯について、依頼があった当初は累犯や罪名等から恐怖感、不安感があったことを報告。

実際に会って接してみると、他の高齢者とあまり変わらないことを実感。触法の高齢者だからといって、特別対応が求められることではない等を訴えた。

### ◇岸田 隆氏（障がい支援施設）

累犯障がい者を受け入れている体験を元に、一施設、一法人のみで受け入れて行くことには、現状の職員配置基準等ではリスクを伴わない運営が難しいことを報告。

今後、累犯障がい者等を施設で受け入れるには、行政支援が必要であり、自立支援協議会等と連携しながら、行政への働きかけが必要である等強調した。

### ◇山本恭子氏（県弁護士会）

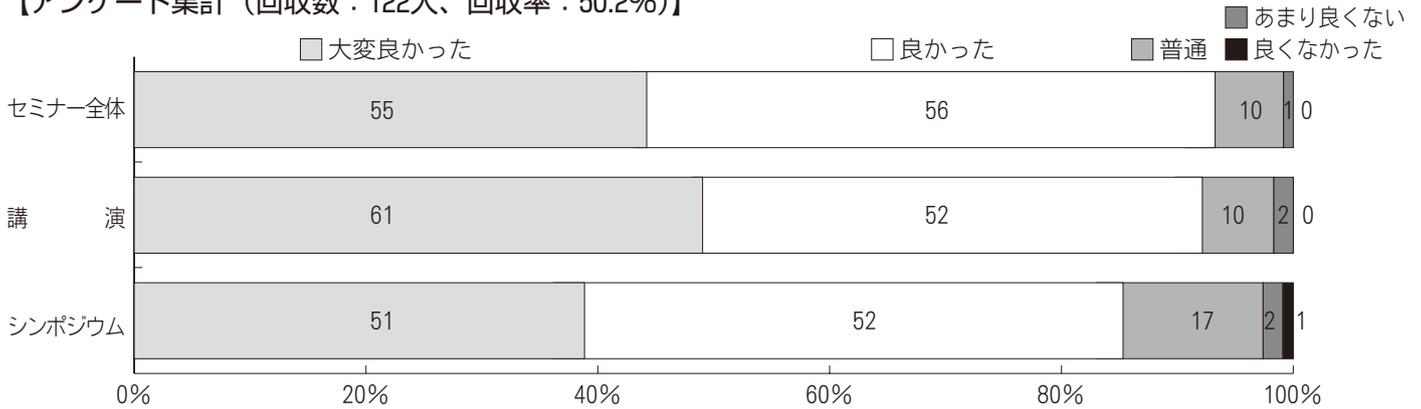
累犯障がい者の支援について、弁護士は刑務所等出所支援に関わることは少ないが、被疑者・被告人段階いわゆる入口支援の際、司法と福祉の連携が重要である。

さらには、障がい者等が被疑者・被告人とされる前の福祉関係者や地域社会そのものの有り様が今日問われる必要がある等訴えた。



# 参加者アンケートから

【アンケート集計（回収数：122人、回収率：50.2%）】



## 【参加者アンケートの主な感想・意見から】

- 刑務所と福祉についての話を初めて聞き、勉強になりました。中でも、福祉の傲慢さや押しつけについて考えさせられることがありました。  
「刑務所には自由はないが、不自由さもない」が印象に残りました。（専門職団体）
- 保護司として、少年だけでなく、高齢の方が多くなりました。障がい者の理解をする勉強も必要と思いました。色々な意味で角度の違う見方を勉強しました。ありがとうございました。（保護司）
- 弁護士業務の中で高齢者、精神障がい、知的障がいを抱える方の犯罪を繰り返すケースを目の当たりにしてきたが、支援の方法、窓口への繋ぎ方について参考になった。（弁護士）



- 関係機関のネットワーク、地域（圏域内のネットワーク構築）、事例検討等々含めて、このセミナーの積み重ねを強く希望します。今日のセミナーは大変有意義で今後に光明を感じました。（福祉施設）
- もっと沢山話しが聞けたら良かった。頭の良い人が痛みを知ると強いなど。福祉を美化せず、社会とお金のことをしっかり把握しているので、理想論ではないところが良かった。自分の勉強不足を感じた。（福祉施設）
- 全体的に“ボンヤリ”としていたと思います。本人の要求・希望をどうやって実現するのか、そのために本人の要求・希望に反する支援（というのか？）が必要になる場合はあるのか？…探し続けます。（福祉施設）
- 「福祉に帰る（頼る）のはイヤだ」という声には

真摯に受けたいと思った。日本では人間としてという視点がなく、障がい者・健常者の仕分けで、一人ひとりが大切な存在と言う思いが欠けていると思う。障がいはその人の一部。小さい頃からの教育は大切だと思う。人間として…の視点、自分も大切という教育（福祉施設）

- 私の自治体は小さな自治体ですが、60歳以上の知的障がいと思われる方が多くいます。特に山間部では家族で囲って生活していましたが、犯罪に手をそめることはなかったのは、その方もできる仕事があり、居場所があったからだと思います。居場所、役割を与えることがいかに大切ではないかとあらためて気がつきました。（行政・相談関係等）
- 働くことで社会の一員だと感じられるというお話があった。社会から離れて生活すればするほど、社会と繋がるのが怖くなるのだと感じた。  
福祉施設の職員、関わる職員がその人と向き合い信頼関係を築いていかなくてはいけないと感じた。（福祉施設）
- 関連団体とのコミュニケーションを取らなければいけないと思います。再度の開催を希望。可能であれば司法関係者（弁護士、検察官、裁判官）が参加出来る機会であってほしい。（専門職団体）
- 安心できる居場所とは？どうしたら地域にそれをつくれるか？人間らしいとはどういうことか？ということを深めるセミナーもあって欲しい。  
目に見える上昇志向が本当に大切か？右肩下がりはいけないのか？マイナスに見えることがマイナスでないことを皆で共有したい。（福祉関係団体）
- 司法と福祉の連携の必要性をとて感じた。司法について学ぶチャンスがあればと思う。法曹界の方々とセッションする機会があればと思った。（福祉施設）

# 弁護士・社会福祉士 相互学習会

## 専門性を活かし、学び合う

「弁護士・社会福祉士 相互学習会～高齢者・障がい者等の権利擁護・ネットワーク推進をめざして～」は県下2会場（長野会場：平成26年11月5日、長野市社会事業協会事務局にて、松本会場：11月6日、長野県弁護士会松本在住会館にて）で開催し、弁護士20人、社会福祉士32人が参加しました。小グループに分かれ、事前提出した課題や質問に回答と意見交換をし、双方の専門性を活かした学び合いと連携を深めることが出来ました。

### ○話し合われた課題・質問○

#### 弁護士⇒社会福祉士

- ・介護付有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、高齢者専用賃貸住宅、グループホーム、小規模多機能等の違いや特色、料金について
- ・入口支援（被疑者・被告人段階）において、協力、連携できること
- ・罪に問われた障がい者等の社会復帰に向けた双方の連携について
- ・社会福祉士としての身上監護等の考え方 等

#### 社会福祉士⇒弁護士

- ・成年後見制度の今後の課題として、医療同意、身元保証、死後の事務、意思決定能力の不十分または低い人への意思決定支援のあり方
- ・相続時の法律と訴訟。認知症など意思決定能力の不十分な人の契約や民法改正
- ・施設等における利用者の職員に対する暴力行為の法的対応
- ・虐待防止法等を適用する場合の留意点 等

### ○参加者アンケート結果から…○

#### 弁護士

- ・社会福祉士の領域を全く知らなかったのが、今回の機会は非常に勉強になった。
- ・グループ学習では、全体では聞きにくい質問をすることができ、社会福祉士は「どうにかしてあげたい」という気持ちを強くもっている事を感じ、ありがたく感じた。大変な仕事であるはずなのに素晴らしい。
- ・身上監護のあり方について「本人にいい生活をさせてあげたい」という考え方はとても新鮮であるとともに自分の考え方を反省した。自分の勉強不足を感じたのもっと知識や経験を身につけたいと思った。
- ・社会福祉士の具体的な事例、経験、考え方などを聞き新たな視点を得られた。

#### 社会福祉士

- ・弁護士＝事件というイメージがあり、相談するという選択肢が自分の中になかったが今回の研修会でその入り口ができた。
- ・法人内で問題となった利用者からの職員に対する虐待事例について具体的なアドバイスを得られた。
- ・お互いの力や不安を共有できた。今後の課題（高齢者や障がいを持った人のさらなる権利擁護や累犯者の地域生活への移行等）が弁護士、社会福祉士とも同じだったことが分かった。
- ・成年後見制度利用支援事業の予算化提言を3士会（弁護士会、司法書士会、社会福祉士会）合同で行うべきという意見がまとまったのは大きな成果だと思う。

### ○今後の双方の連携等に向けて○

- ・社会福祉に関する体制について知識を付けた上で、次回はより深い議論ができるようにしたい。
- ・具体的な事例を設定し、ケース会議のような形式でやるのが有効。
- ・双方の連携に向け、各地域での活動ができるように体制づくりをしたい



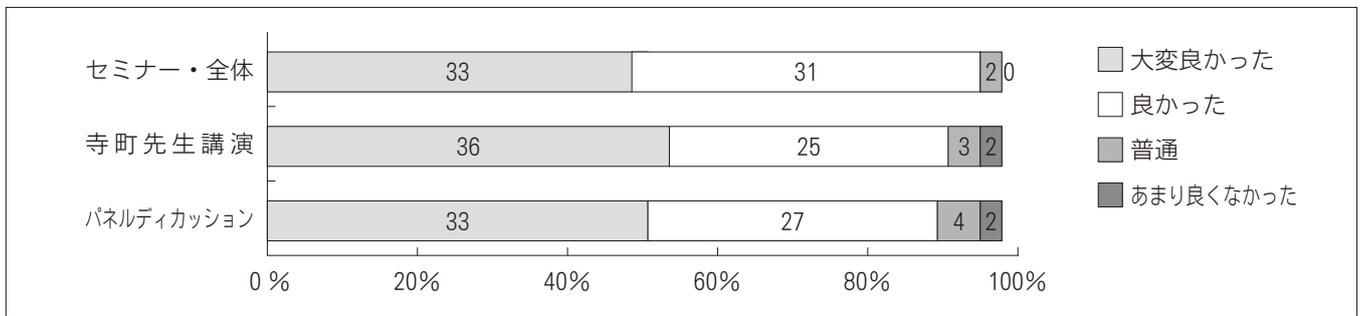
## 「最期まで自分らしく過ごすことを考えるセミナー」

樋 沢 省 吾 (東信地区)

10月25日に浅間総合病院にて、東信地区企画「最期まで自分らしく過ごすことを考えるセミナー」を一般市民の参加を含め130人の出席者の中、開催しました。



当日は、弁護士で社会福祉士でもある寺町東子先生の『死には自分で決めよう』と題した成年後見人としての活動の中での事例を交えたご講演と、パネリストに弁護士の山田啓顕氏、医師の工藤猛氏、僧侶の浅岡徳光氏、看護師の小池さちみ氏を迎え、各職の立場からでの最後まで自分らしく過ごすための意見交換を行いました。会場からは葬祭ディレクターの方や遺品整理士の方からの参考意見もありました。



## 「私らしく」を支える権利擁護セミナー in 北信

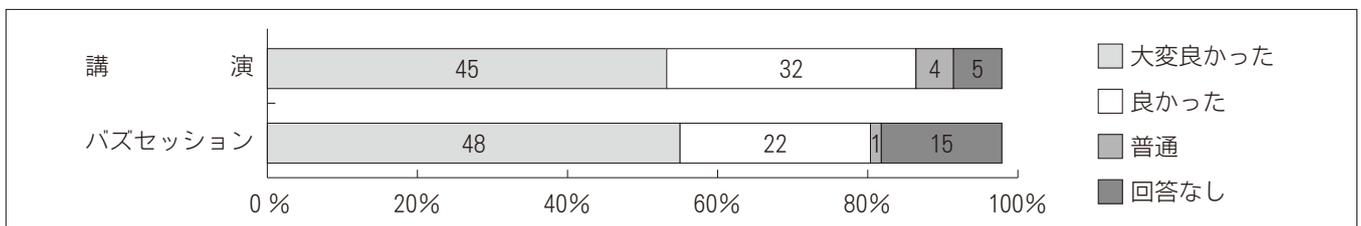
海 野 大 介 (北信地区)



平成26年11月28日、中野勤労者福祉センターを会場にして、宮城福祉オンブズネット「エール」副理事長の小湊純一社会福祉士を講師に、北信地区ふくしまるごと学会が開催されました。学会では、小湊氏の講義のほか、民生委員や地域住民、福祉や司法関係者がグループに分かれ、一つの事例を題材にして、バズセッションを行いました。自立を支援するということの奥深さと重要さを、日々の支援を振り返りながら認識を新たにすることができました。



また他職種の方とのバズセッションでは様々な視点での意見を聴くことができ勉強になりました。全体を通して多くの気づきを得ることができました。



# 「本会会員 1,000人突破！」… 会員から寄せられた声

平成26年9月に本会会員が1,000人突破となり、広報誌145号では記念特集号として各界からメッセージをお寄せいただきました。今号では、会員に「会員1,000人突破」に寄稿文を募りました。改めて県内会員の力を感じ、共に歩みましょう。



## 『質の高い研修から学び、気づき、実践に活かす』

長野市地域包括支援センターコンフォートきたながいけ

中村友美（北信地区）

過日開催されました権利擁護支援団体&長野県社会福祉士会北信地区合同研修会に参加をさせて頂きました。講師に宮城福祉オンブズネット「エール」副理事長小湊純一氏をお招きし「私らしくを支える～専門職としての立ち位置～」をテーマに講義を頂き、バズセッション形式でワークをしました。講義の中で地域包括支援センターの役割について話があり、『専門職として最低限やらなければならないことが出来ているか 地域包括支援センターが適正な動きをしていないから権利擁護団体等の他者が動かなければならなくなる』とのご指摘に日頃の業務を振り返り、予防プランに追われる傾向にある現状を変えなければいけない、地域包括支援センターの役割を果たせる体制を整え、私自身も専門職としての確かな対応が出来る力を付けたいと思いました。研修に参加する事で改めて業務を振り返る良い機会と日々の実践に生かせる力になると考えます。今後も会の研修に参加をして行きたいです。



## 『長野県社会福祉士会の更なる発展を願って』

飯綱町議員・NPO法人エムネット理事長 塚田 實（北信地区）

先日、機会を得て、宮城福祉オンブズネット「エール」の小湊純一副理事長に「権利擁護と福祉のコンプライアンスルール」の基本編を教示いただきました。

ご存知の方も多いと思いますが、コンプライアンスルールは、施設や職員の「行動指針」であり、専門性を高めるために必要なシステムであること。また、福祉のコンプライアンスルールをつくり、実施し、管理する「人」が最も重要だと説かれました。

営利企業の経営資源は、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」と言われますが、やはり最上位は「人」です。「人材」を「人財」と表記するのも頷けます。

私達は、毎日「人」と係りながら仕事をしています。多面的な見方や考え方の訓練を積むため、より多くの分野の方々との交流を通して自身を向上させることが更なる会の発展に繋がるものと思っています。



## 『社会福祉士としてできることから』

ちいさがた福祉会 デイサービスセンターころろ 岩下美鈴（東信地区）

私は、8歳と2歳の子供の子育てをしながら、高齢者デイサービスセンターの相談員としてフレックスタイムを使って働いています。社会福祉士会の研修・勉強会は数回しか出た事がなく、会報を読むたびいつも「自分もがんばらなければ」と思います。思うけれどもなかなか動けないのがもどかしいです。

しかし、社会福祉士としてできることから始めようと思い、「お助け隊ころろ」というサービスを業務で企画をしました。これは介護で悩む利用者のご家族のサポートをするサービスで、悩み相談を中心にお受けしながら、介護・看護・リハビリ職等とも連携し、移乗などの技術指導も行います。ご家族の悩み解決をして役に立ちたいと思います。

くじけそうなとき、会報で会員の活躍を読むと元気が出ます。会員が1,000人突破となり、ますます会員同士がこの会報誌を通じて知り合い、学び合い、向上していくことを願います。

地区のことは  
自分たちで決める

## 県下4地区(北・東・中・南信)地区総会開催

本会は、地区活動(学習会の開催や会員相互のネットワークの構築)を主たる活動の一つと位置付けています。地区総会は、地区の事業計画の決定や役員の選任を行う地区活動の重要なスタート地点となります。会員は住民票を置く地区の総会に積極的に参加しましょう。

各地区の総会日程です。詳細は、別紙(総会案内文書&参加申込書・委任状)を参照ください。



### 北信(長野+北信ブロック)

日時:平成27年2月21日(土) 10時~12時30分

場所:長野市立柳原公民館  
(長野市大字小島804-5)

### 中信(大北+松本+木曾ブロック)

日時:平成27年2月8日(日) 17時~17時30分

場所:サンモリッツ 中ホール  
(安曇野市豊科南穂高3800-1)

☆同日開催 13時~17時  
『重症心身障害児者支援シンポジウム』

### 東信(上小+佐久ブロック)

日時:平成27年2月7日(土) 10時~11時

場所:上田市交流文化芸術センター  
サント・ミュージゼ 中ホール  
(上田市天神3-15-15)

☆同日開催 13時~16時50分  
セミナー  
『認知症の予防・ケアと  
地域生活支援を考えるセミナー』

### 南信

(諏訪+上伊那+南信州ブロック)

日時:平成27年2月14日(土) 13時30分~

場所:伊那市社会福祉協議会福祉まちづくりセンター  
(伊那市山寺298-1 ※旧中央病院跡)

## 地区総会へ向け 会員からメッセージ

### 「自分への投資として、地区総会へ参加を」

私は元々、管理栄養士をしておりました。栄養士の多くは一人職場です。多くの利用者や他職種と涉り合うとき、迷ったりわからない事があります。そんな時、頼りになるのが横のつながりです。4年前に社会福祉士資格を取得し、デイサービスの管理者になりました。私にとって研修会や地区総会へ参加することは、横のつながりができて自分が成長するための投資となります。皆様も地区総会に参加し、自分自身と地区の成長につなげましょう。

東信地区 甲田 伸子



出産育児のため仕事を休んで、そろそろ1年になります。

職場復帰に近いタイミングで行われるこの総会では、地区で起こっている今について情報共有出来ればと思っています。

北信地区 宮澤 智子

### 「フィールドは多彩! 参加してネットワークと学びを深めよう!!」

社会福祉士であっても活躍するフィールドは様々です。その中で情報交換やネットワーク作りができることが社会福祉士会の魅力だと思います。また、自分が関わっている業務以外の分野は、疎くなりがちですが、会では多種多様な研修が企画され、幅広く学べることも大きな魅力だと思います。

会の活動を通じて少しでも学び、身につけ、社会福祉士として成長していきたいですね。東信地区 塩澤 大樹

# お知らせ

福祉まるごと学会  
福祉活動委員会・東信地区合同企画  
「認知症の予防・ケアと  
地域生活支援を考えるセミナー」

アルツハイマー型認知症の権威である鳥取大学の浦上克哉先生のご講演を通して、認知症を正しく理解するとともに、パネルディスカッションを通して、認知症の方々も暮らしやすい地域社会をつくるために、私たちが何をすれば良いのか、何ができるのかを考えます。

日時：平成27年2月7日(土) 12:55～16:50  
会場：上田市交流文化芸術センター  
サント・ミュージゼ 小ホール

内容①：講演  
「認知症への正しい理解と予防対策」  
講師：浦上 克哉 先生  
(医師・鳥取大学医学部教授)

内容②：パネルディスカッション  
「認知症になっても暮らしやすい社会とは…」

福祉まるごと学会 中信企画  
「松本圏域  
重症心身障害児者支援シンポジウム」

職種をこえて集い、課題を共有し、将来の夢を語り合いましょう。

日時：平成27年2月8日(日) 13:00～17:00  
会場：安曇野サンモリッツ 中ホール

内容①：講演  
「重症心身障害児と必要な支援  
～城西病院新病棟の紹介も含めて」  
講師：石田 修一 先生  
(城西病院 小児科医長)

内容②：報告  
「県内重症心身障害児生活実態調査の  
結果と圏域ごとの取り組み」  
ゆうテラス 亀井 智泉 氏  
他、グループワークや日中活動支援、GHなど  
各施設からの報告。医療機器・医療デバイスの  
体験実習も予定しています。

## 今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<http://nacs.jp/>) をご確認ください。

| 日時(曜日)   | 事業名・研修名  | 会場            | 備考          |
|----------|--|---------------|-------------|
| 1月17日(土) | 東信・上小ブロック学習会                                     | 上田市ふれあい福祉センター |             |
|          | 東信・佐久ブロック学習会                                     |               |             |
|          | 新潟県社会福祉士会との打合せ                                   | 新潟県社会福祉士会     |             |
| 2月7日(土)  | 認知症の予防・ケアと地域生活支援を考えるセミナー                         | 上田市交流文化芸術センター | 講師：浦上克哉先生   |
|          | ばあとなあ役員会・運営委員会                                   |               |             |
| 8日(日)    | 松本圏域 重心シンポジウム                                    | 安曇野サンモリッツ     | 講師：石田修一先生   |
| 2月7日(土)  | 東信地区総会 } 地区総会一斉開催！<br>中信地区総会<br>南信地区総会<br>北信地区総会 | 上田市交流文化芸術センター | 10:00～11:00 |
| 8日(日)    |  | 安曇野サンモリッツ     | 17:00～17:30 |
| 14日(土)   |  | 伊那市社会福祉協議会    | 13:30～      |
| 21日(土)   |  | 長野市柳原公民館      | 10:00～12:30 |
| 3月7日(土)  | ファシリテーション講座                                      | ビレッジ安曇野       | 講師：鷺見真一氏    |
|          | 第5回理事会(拡大運営委員会)                                  | 松本ささらの里       |             |

◎ 入会状況(平成26年11月末現在) \* 会員数：1,016名(男性会員：461名 女性会員：555名) 入会率：32.47%

## 編集後記

今年もあとわずか。年末の歌番組で聴かれるであろうディズニー映画「アナと雪の女王」Let It Go～ありのまま～の歌詞は、私達にも通じる言葉がある。『降り始めた雪は 足跡消して 真っ白な世界に一人の私 風が心にささやくの このままじゃだめなんだと 戸惑い傷つき 誰にも打ち明けずに悩んでた それもうやめよう ありのままの姿見せるのよ ありのままの 自分になるの…』新年には各地区で地区総会が開催されます。

ありのままの自分や他者を受容できる社会福祉士になる為、積極的に参加しましょう!! (K. O)